

2024年度 事業報告書

社会福祉法人 千鳥会



目 次

法人本部	・・・・・・・・・・・・・・・・	4～8
千鳥会ゴールド拠点	・・・・・・・・・・・・・・・・	8
特別養護老人ホーム千鳥会ゴールド		
津名デイサービスセンター		
高齢者住宅等安心確保事業		
ゆうらぎ拠点・北淡荘	・・・・・・・・・・・・・・・・	9～11
特別養護老人ホームゆうらぎ		
ゆうらぎデイサービスセンター		
ゆうらぎ訪問介護ステーション		
養護老人ホーム 北淡荘		
ほほえみ拠点	・・・・・・・・・・・・・・・・	11～13
地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ		
千鳥会デイサービスセンターほほえみ		
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ		
LEVN	・・・・・・・・・・・・・・・・	13～15
小規模多機能型居宅介護事業所 ぬくもり		
千鳥会居宅介護支援事業所		
千鳥会在宅介護支援センター		
家族介護教室・家族介護者交流事業		
ちびっこランドぬくもり		
グループホームRAVIE		
グループホーム しおさい	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
しおさいデイサービスセンター		
佐野デイサービスセンター	・・・・・・・・・・・・・・・・	16
ちびっこランド ちどり	・・・・・・・・・・・・・・・・	16～17
千鳥会福祉用具貸与事業所	・・・・・・・・・・・・・・・・	17

1. 評議員会・理事会報告

	開催日	開催場所	出席者数／定数	議題	欠席者氏名	監事出席の有無 出席者氏名
理事会	2024 年 6 月 3 日	千鳥会 法人本部	6／6	① 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 第二次補正予算の件 ③ 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ④ 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ⑤ 社会福祉充実残高の算定について ⑥ グループホーム RAVIE 増築工事の件 ⑦ 評議員推薦候補者の件 ⑧ 定時評議員会開催・議題について	なし	樽野敏朗
評議員会	2024 年 6 月 24 日	千鳥会 法人本部	6／8	① 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 事業報告の件 ② 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 決算報告の件 ③ 2023 年度 社会福祉法人千鳥会 監事監査報告の件 ④ 社会福祉充実残高の算定について ⑤ グループホーム RAVIE 増築工事の件	大歳喜久 井高孝一	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2024 年 7 月 22 日	千鳥会 法人本部	6／6	① グループホーム RAVIE 増築工事の件	なし	樽野敏朗 仲野廣巳
評議員会	2024 年 7 月 22 日	千鳥会 法人本部	6／8	① グループホーム RAVIE 増築工事の件	大歳喜久 井高孝一	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2024 年 8 月 26 日	しづのお だまき館	5／6	① グループホーム RAVIE 入札予定価格決定の件	伊郷真一郎	樽野敏朗 仲野廣巳
評議員会	2024 年 8 月 26 日	しづのお だまき館	6／8	① グループホーム RAVIE 入札予定価格決定の件	井高孝一 金村守雄	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2024 年 8 月 26 日	しづのお だまき館	5／6	① グループホーム RAVIE 落札業者決定の件	伊郷真一郎	樽野敏朗 仲野廣巳
評議員会	2024 年 8 月 26 日	しづのお だまき館	6／8	① グループホーム RAVIE 落札業者決定の件	井高孝一 金村守雄	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2024 年 12 月 23 日	千鳥会 法人本部	6／6	① 2024 年度 社会福祉法人千鳥会 第一回補正予算案の件	なし	樽野敏朗 仲野廣巳
理事会	2025 年 3 月 24 日	千鳥会 法人本部	6／6	① 2025 年度社会福祉法人千鳥会事業計画の件 ② 2025 年度社会福祉法人千鳥会新年度予算の件 ③ 養護老人ホーム北淡荘定員変更の件 ④ その他	なし	樽野敏朗 仲野廣巳

2. 施設整備事業

2025 年 4 月 1 日増床開設

◎ 障害者施設 グループホーム RAVIE 5 床 ⇒ 10 床

3. スキルアップ研修

研修対象職種	講 師 名	研修内容	実 施 日	参加人数
新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし				

4. 職員福利厚生

実施内容	実 施 日	実施種目／実施場所	参加人数
職員福利厚生事業	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員親睦会（各事業所）	新型コロナウイルス感染症予防のため、開催なし		
職員健康診断 （前期・後期）	2024 年 7 月～11 月	全事業所	252 名
	2025 年 1 月	ゴールド・しおさい・LEVN	30 名
	2025 年 2 月	ほほえみ・ゆうらぎ・北淡荘	57 名
職員腰痛検査 （前期・後期）	2024 年 7 月～11 月	ほほえみ・ゆうらぎ・北淡荘	113 名
	2024 年 9 月～11 月	ゴールド・しおさい・LEVN・佐野デイ	77 名
	2025 年 2 月	ほほえみ・ゆうらぎ・北淡荘	99 名
	2025 年 3 月	ゴールド・しおさい・LEVN・佐野デイ	76 名
インフルエンザ 予防接種	2024 年 10 月～12 月	全事業所	245 名
職員面談	5～6 月、10～11 月	全事業所	全職員

5. 入社式（入職者）・退職者

入 社 式	新 入 職 員 数
2024 年 4 月 1 日	6 名
2024 年 6 月 3 日	8 名
2024 年 8 月 1 日	5 名
2024 年 10 月 1 日	4 名
2024 年 12 月 3 日	11 名
2025 年 2 月 3 日	9 名
合 計	43 名

月	退職職員数	月	退職職員数
4 月	1 名	10 月	2 名
5 月	1 名	11 月	1 名
6 月	5 名	12 月	5 名
7 月	3 名	1 月	4 名
8 月	3 名	2 月	0 名
9 月	1 名	3 月	4 名
合 計		30 名	

6. 産前産後休業・育児休業・復帰後短時間勤務取得者数

産前産後休業	5 名
育児休業	2 名
短時間勤務	2 名

7. 職員奨励金・助成金

	事 由	内 容	件 数
自己啓発支援	報奨金	介護福祉士	5 件
自己啓発支援	報奨金	実務者研修修了	1 件
自己啓発支援	報奨金	社会福祉士	0 件
自己啓発支援	報奨金	調理師	2 件

公益事業・・・社会福祉事業以外の事業で、その事業を行う事が公益法人の事業となり得る社会福祉と関連する事業

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	LEVN	佐野デイ	ちびっこ ランド
社会福祉法人減免制度	低所得で生計が困難な方について、介護保険サービスの提供を行 う社会福祉法人等が、その社会的な役割にかんがみ、利用者負担を軽減することにより、介護保険サービスの利用促進を図ることを目的とする。	○	○	○				
介護予防教室	早い段階から高齢者ができる限り自立した生活を送れるように支援することにより、要支援や要介護状態の予防やその重度化の予防と改善を図る。	○						
介護技術講習会	要介護・要支援状態になっても出来る限り在宅で安心して暮らし続ける為には介護保険サービスを利用する事に加え、家族の介護力を高める事も重要である事から、外部向けの技術研修を実施し、家族介護力の向上を目的とする。	○		○				
認知症予防教室	認知症の早期発見・重症化予防および要支援、要介護状態になることを防ぐこと、認知症について正しく理解し、自宅でも継続して取り組める予防方法を周知することで、参加者がいきいきと自立した生活を送れることを目的とする。	○		○				
福祉体験学習事業受入	夏休み中に福祉施設での仕事の様子の見学、体験をしたり、高齢者や障がい者と触れ合うことで、思いやりの心を育てるとともに、福祉に関わる仕事を身近に感じ、興味を持ってもらう。	○	○	○	○	○	○	○
認知症サポーター養成研修 （委託事業）	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、千鳥会在宅介護支援センターとして委託を受けて実施する。	○						
地域サポート型施設 （兵庫L S A又見守り活動）	高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員(LSA)等を配置して地域住民を対象に 24 時間体制の見守り等を行う。	○	○	○				

地域公益活動・・・社会福祉事業や公益事業のうち公的制度の給付対象外のもの（公的制度の給付対象となっていないもの）

事業内容		事業所名						
活動名	活動内容	ゴールド	ゆうらぎ 北淡荘	ほほえみ	しおさい	LEVN	佐野デイ	ちびっこ ランド
学生の実習生の受入れ	高校・短大・専門・大学の学生が履修するカリキュラムの中での実習の受け入れを行い、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	○
職場体験 （トライやるウィーク）	ボランティアや福祉体験を共有する取り組みや、「トライやる」アクションでの社会福祉施設等における介護等の体験により、福祉学習の充実を図る。	○	○	○	○	○	○	○
祭り地域交流	地域交流の一環として、季節のお祭り行事を通じて地域住民を招待	○	○	○	○		○	

(春・夏・秋)	し、ご利用者、スタッフ共に地域との交流を図る。							
各種ボランティア（慰問等）の受け入れ	施設への慰問を通じて、外部ボランティアとご利用者との交流を図る。	○	○	○	○	○	○	○
いきいき 100 歳体操	地域住民の健康増進を目的としていきいき 1 0 0 歳体操の実施場所として、無料で施設を開放。		○	○			○	
訪問サービス（介護保険外事業）	低所得者を対象に、介護保険サービス以外で低額で訪問サービスを実施。		○					
ゴミ出しサービス	安否確認を兼ねて自宅を訪問し、ゴミの廃棄のお手伝いを行う。	○		○				
ふれあいの集い	要介護認定の自立者を対象に、介護予防を目的として低額でデイサービス実施	○						
認知症サポーター養成研修	認知症高齢者をサポートする住民を養成する事を目的に、淡路市地域包括支援センターの委託（無料）を受けて受講者にも無料で実施。	○		○				
配食サービス	高齢者向けの弁当を低額で自宅に配達するサービスで、対象は、一人暮らしの高齢者や高齢者世帯とする。	○	○	○			○	
一時預かり保育	児童を一時的に預かることで、安心して子育てができる環境を整 備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。					○		○
デイサービス（夕食サービス）	夕食を食されてから帰宅したいご利用者の希望に応じて、食費のみ頂いて送迎は無料で行うサービス。			○				
プルタブ回収	空き缶散乱公害がなくなり、回収したプルタブが一定量蓄積されると車椅子が製造できるという利点を活かし、福祉団体への寄贈を目的に、三洋電気洲本工場ＯＢ団体「洋友会」を通じてボランティア活動を実施。	○	○	○	○	○	○	○
使用済み切手収集	使用済み切手の収集を行い、団体を通じてアジアやアフリカの保健医療事情の向上のため役立てる事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
エコキャップ運動	ペットボトルのキャップの収集を行い、社会福祉協議会、ＮＰＯ法人を通じて発展途上国の医療支援に貢献する事を目的として実施。	○	○	○	○	○	○	○
宅配サービス	事業所から業者に商品を集計した書類をファックスし、1～2 日後にご利用者自宅に届くというシステム。重たい品物、大きな品物でも購入することができ、ご利用者の買い物難民救済に役立てる。	○		○				
ギャラリー展示	地域の方等の作品を展示する。	○	○	○				
日本財団自動販売機設置	飲料 1 本につき 10 円を社会貢献プロジェクトに寄付する。	○	○	○				
寄っていかんか千鳥	ご利用者が作った作品を、誰かが買ってくれることで、ご利用者に自身の価値・存在を感じ、認めてもらうために実施。また、その中で世代間交流や地域とのつながりを持ち、地域の方の集いの場所にする。	○						
中学校出前授業	介護の魅力、必要性、社会情勢等、介護の現場を知ってもらう目的として実施。	○		○				
高校福祉授業	福祉についての理解を深める為に、「認知症サポーター養成講座」等を実施。	○						

8. 情報公表サービス受審

■ サービス評価（淡路市提出日）

しおさい しおさいデイ	2025 年 3 月 27 日
小規模ぬくもり	2025 年 3 月 25 日
小規模ほほえみ	2025 年 2 月 21 日

■ 運営指導監査

津名デイサービスセンター	2024 年 10 月 24 日
佐野デイサービスセンター	2024 年 10 月 24 日
福祉用具貸与事業所	2024 年 10 月 24 日

居宅介護支援事業所	2025 年 1 月 27 日
グループホームしおさい	2025 年 1 月 28 日
小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ	2025 年 1 月 29 日
グループホーム RAVIE	2025 年 1 月 29 日

9. 総括

2024 年度は介護報酬、障害福祉サービス、診療報酬等の「トリプル改定」が実施され、介護報酬等の改定率も全体でプラス改定となりましたが、コロナの感染の影響や物価高騰等により、法人の事業にも大きな影響を及ぼしました。厳しい社会情勢が続く中でも、千鳥会の理念に基づいた事業運営を進め地域の皆様に喜んで頂ける安心・安全なサービスを提供して参りました。

「新型コロナウイルス」の感染拡大は、全世界の人々の生活様式を一変させ、社会情勢はもちろん社会福祉の領域においても大きく変わり、少しずつ日常を取り戻しつつありますが、季節性インフルエンザとの同時流行などもあり、感染拡大防止対策への対応に苦慮しながらも、実施できる事業は可能な限り実現させていきます。

又、水道光熱費、燃料費、給食費・委託費等にかかる物価高騰に加え、建築費、人件費の上昇に関する課題について、実態を把握し各自治体等においてバラツキがあり、解決に向けて、提言・要望等を継続していきます。

今後も自立支援・重度化防止を重視した、質の高い福祉サービスと安定した運営が提供できるように進めて参ります。

千鳥会ゴールド拠点

2024 年度 千鳥会ゴールド事業報告書

1. 総括

職員の退職・体調不良の影響により厳しい運営状況になりましたが業務内容の見直し、業務体制の変更を行いました。職員を新規採用出来なかった事により、利用人数を調整したため、稼働率は平均 77.03%（長期+短期：61 名）になりました。感染症の発生については、感染予防対策、感染者対応が徹底できたことで施設内でのインフルエンザ発生はなく、新型コロナウイルスについては 4 名の利用者の療養はありましたがクラスターにならず回復されました。

特に大きな事故・クレームも無く 1 年無事に運営することができました。取り組みとしては、コロナ禍以前の生活に戻していくため感染対策を継続した上で、対面会日を増やし、ご家族参加型の敬老会、レクリエーションの充実を図りました。また新たに「夢を叶えるプロジェクト（通称：夢かな）」を開始し、長期のご利用者の夢を叶えるという取り組みを行いました。施設での生活の中でもやりがい、楽しみ、意欲的な活動ができるよう計画、実行しご利用者、ご家族から喜びの声を多数頂いています。内容としては、「自宅に帰りたい。買い物に行きたい。美味しい物が食べたい。」などになります。施設での取り組みや活動を知ってもらうために SNS を活用し、外部やご家族に発信することができました。現在長期入所待ちが 60 名（前年度比+22 名）、2024 年度の申込者が 33 名（前年度比+6 名）おり、選ばれる施設としての取り組み、サービスの維持ができておりますが、来年度も顧客満足向上、サービスの向上に向けて取り組んでいきたい。

来年度への課題及び展望

2025 年度は、職員体制の確保、業務内容の見直し等により安定した収入の確保、サービスの向上、顧客満足向上を目指して取り組みます。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP 計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めて参ります。

2024 年度 津名デイサービスセンター事業報告書

1. 総括

2024 年度の稼働率の平均は 74.6%（前年度比較：+4%）。延べ利用者数 9655 人（+767 人）。新規利用者数 38 名（+4 名）となっており、利用者、収益確保ができました。職員の退職、異動もありましたが、業務改善（i-Pad 活用による記録時間の短縮、レクリエーションの導入など）、業務分担、業務内容の見直しを行ったことで、サービスの質を低下させることなく、選ばれるデイサービスとしてサービスの維持ができました。事故、アクシデント等については迅速に対応することで、大きなクレーム・事故に繋がることもなく対処ができ、感染予防対策を継続したことで、安心、安全に利用して頂くことができました。外部との連携では、淡路市通所連絡会への参加、地域との交流（津名高校文化祭参加、コロコロアートコンテストへの出展）を行い、事業所内の取り組みやご利用者の様子を SNS 等で、地域やご家族に積極的に発信することができました。

来年度への課題及び展望

2025 年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、新しいサービス内容への挑戦、津名デイサービス独自の取り組みの発展を行い、安定した収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP 計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い、安心、安全な運営に努めて参ります。

ゆうらぎ拠点・北淡荘

2024 年度 特別養護老人ホームゆうらぎ事業報告書

1. 総括

施設入所、短期入所生活介護について、筋力の低下や認知症等により自身による危険認識が難しい利用者様のニーズが高まっており、ゆうらぎにおいても予防対策を始めとしたリスクマネジメントに取り組むところにはありますが危険予測が難しいケースも増えており、2024 年度について骨折等、受診を伴う重大アクシデントが 7 件と非常に厳しい結果となっています。今後、継続した予防対策の他、介護ロボット等の見守りシステム導入も視野に入れ、事故防止に努めていきたいと思ひます。

2024 年度についてはコロナウイルス規制緩和が社会全体に浸透し、生活様式についてもコロナ過以前の水準に戻りつつありますが、2023 年 5 月コロナ感染 5 類移行後もコロナ感染による死者は約 4 万 4 千人となりその 80%以上は 80 歳以上の高齢者となっています。ゆうらぎにおいても 2024 年 8 月に施設内コロナ感染が発生し入所者 5 名の感染、内 2 名の死亡がありました。高齢者施設にとってはまだまだ安心できる状況ではない為、今後も BCP 感染計画に基づき感染対策訓練、防止対策に注力していきたいと思ひます。

施設利用状況について 2024 年度については、多くの利用者様、家族様、居宅介護支援事業者様、医療機関様のご理解、ご協力により大きな稼働率の低下はなく、年間平均 95%以上の施設稼働状況に落ち着いています。ただ昨年度以上に介護職員の不足が深刻化しており、法人全体で求人の拡大に取り組んではいますが、社会全体として成り手が不足しており安定した介護職員確保には繋がっていないのが実情となります。ゆうらぎが提供させて頂いているユニットケアはサービスを維持するにあたり多くの介護職員が必要な事業になります。このまま職員確保ができず人員が今以上に低下した時には、サービスの縮小(定員減少、ユニットケア体制の見直し等)も考えざるを得ない状況に至っており、その対応により施設運営も大きく左右される可能性があります。このような大変厳しい状況にありますが、信用や信頼を一番に考え、利用頂いている利用者様や家族様にご迷惑をかけることがないよう、ゆうらぎ全体で精一杯取り組みたいと思ひます。

来年度への課題及び展望

来年度について介護職員不足により施設運営も大きく左右される可能性が高いですが、利用頂いている利用者様や家族様への感謝を忘れず、高品質なサービスを提供できるようゆうらぎ全体で取り組みたいと思ひます。昨年度、介護保険改定により BCP 事業計画、口腔管理体制、身体拘束廃止措置が義務化となった項目について継続しマニュアル、計画書の整備や見直し、職員教育訓練に力を入れ取り組んでいます。また次回 2027 年度の介護保険改定で義務化が予定されている生産性向上への取り組みについても、生産性向上委員会を立ち上げる等、今後の義務化に対応できるよう取り組みを行っていきます。上記にも記載の通り、介護職員不足の深刻化により、見通しが明るい状況にはないですが、1 日 1 日を精一杯、取り組み、少しでもゆうらぎ全体が良い方向に進んでいけるよう職員一同、尽力したいと思ひます。

2024 年度 ゆうらぎデイサービスセンター事業報告書

1. 総括

デイサービスでは稼働率向上を最大の目標とし、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指し、利用者に満足して頂けるよう職員個々が知恵を出し合い、常に新しい行事・レクリエーションを企画・実施し、日々変化のあるデイサービスを目指し頑張っており取り組んでいます。

2024 年は、利用者の高齢化により、入院や施設入所の方が増えたりで稼働率が大きく落ち込んでしまいました。特定が胃腸炎でお休みになったり、亡くなられたりして特定稼働率もまた大きく落ち込んでしまいました。それでも単発利用や利用休止の方が 3 年ぶりに利用して下さったりもありました。

日頃からの感染対策と予防を徹底し、利用者・家族の理解を深め、事業所内での蔓延を防ぐ事につとめていきます。

利用者の高齢化に伴い、体調不良で入院されたり、独居が難しくなり施設入所されたりする方がこれからも増えていくと思ひますが、新規利用者の獲得と利用回数増回を目指すため、たくさんの喜びの声を頂くと共に、楽しく過ごす様子を SNS にて発信していくことで、選ばれる施設になれるよう職員一丸となって精一杯取り組んでいきたいと思ひます。

来年度への課題及び展望

デイサービスでは、利用者の「自立支援・重度化防止」を軸足に置いた介護を基本とし、利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じて自立した生活を営むことが出来る様サポートと、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持を図るとともに、家族の介護負担を軽減するなどの役割もしっかりと担っていける様関係事業所と密に連携をとり運営していきたいと思ひます。

レクリエーションの充実を図ることで、体を動かすゲームや作品作りなどで刺激のある生活を送り QOL(生活の質)の向上により認知症予防に繋がったり、筋力を強めることで寝たきり予防をすることに繋がっていきます。

利用者・家族の個々の要望を聞くことにより、満足度 UP に繋がり、稼働率向上、また利用数増回に向けていきたいと思ひます。

様々な感染対策を徹底し安心・安全な環境を提供する事、職員研修・BCP 事業計画の充実を図り、稼働率向上に職員一丸となり取り組んでいきたいと思ひます。

2024 年度ゆうらぎ訪問介護ステーション 事業報告書

1. 総括

今年度も利用者に満足されるようサービス内容の充実・見直し、信頼関係を築くことに頑張り、ケアマネージャーとも密に連絡を取り、早期に対応したり細かなサービスも追加したりご利用者に満足いただけるよう精いっぱい取り組みました。

職員一同勉強会等で学んだことを活かし取り組みを実施してきました。普段何気ない当たり前の介護の中でそれが当たり前ではなくご利用者や家族からの声にも目を向け対応してきました。その中で喜びの声もたくさんありました。「訪問介護員(ヘルパーさん)の顔を見ると安心する。元気が出た」「食事が良かったです」「誕生日カード嬉しい」と取り組みに対しての嬉しい言葉も頂きました。家族様よりサービス記録表に「訪問して頂いて助かりました。」「訪問に入ってくれることで清潔が保てています」等のコメントや嬉しいお言葉をいただくことも増えサービスの向上に繋がっているのではないかと感じます。中には家族様が大変さに気づかれご協力いただけるご利用者や、訪問回数を増やしてほしいとの希望も多々あります。ご利用者だけでなくご家族ともかかわる中でご協力いただけるご家族も増えてきているのは取り組みでご家族との連絡も増えることにより関り、関係性が出来てきたのではないかと感じる場面もありました。

勉強会については職員一人一人新たな気付きや振り返ることによりより一層知識も向上したかと思えます。教育訓練についても今年度も同様、職員一人一人新たな気付きや振り替えることで職員一同初心に帰り今まで学んだことでも些細な不明点、どうしたらいいのか等意見があった場合個々に勉強会をしたり、指導し、勉強会等で学んだことを活かし視点を変えての取り組みを実施してきました。訪問の際も同行訪問を行い介助方法についてもアドバイスをを行い同行訪問の回数もできるまで指導をなるべく行い取り組みました。

その他、去年できなかった栄養士にも協力して頂き療養食の勉強会も行いました。

今後の課題としては BCP(事業継続計画)については、事業所として災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、どうしたらいいのか訪問独自の BCP はどう動けばいいのか細かい部分に目を向け取り組んでいけたらと考えています。

利用者数は、施設に入居する方や季節により入院してしまう方が多く、訪問しているうちにより終了する方もありました。終了だけではなく共に行うことでご利用者さんのできる事も増え自立される方や、サービスコードの見直しも実施して行きました。訪問終了した分、新規依頼もあったのでお受けできる範囲でお受けしていますが、職員不足によりお受けできないことも多々ありました。

来年度も、訪問介護の満足度を上げ利用者に喜んでいただけるよう実施していきます。

来年度への課題及び展望

2024 年度は、感染対策は引き続き気を緩めることなく継続し災害や、感染症の発生時、サービスが継続できるように、BCPについて更に学び、訪問独自の BCP 業務計画書の作成を行い災害発生時にはどう対応していく事がいいのか、どうしたらいいのか取り組んでいけたらと考えています。勉強会、研修についても接遇及び、アンガーマネジメントを引き続き学び、職場内環境を整え、また、介護保険、法令遵守、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント等の勉強会の実施を行い、訪問介護員としての倫理観を身につけ、今後も意識の向上を目指していききたいと思います。

ご利用者のアセスメントをしっかりと取り、ニーズを把握し、対応。可能性の実現を目指し生活の質の向上を考えてプランを実施し、ご家庭で安心して在宅生活を送れるようサービス提供を行っていききたいと思います。今年度も危険な箇所やヒヤッとしたことがあれば予防処置を立案しサービス提供に努めましたが今後も継続し未然に事故を防止できればと思います。ご利用者一人ひとりに合ったサービスの提供、環境を含み考えサービスを実施し稼働率の向上も目指していききたいと思います。

今年度は事業所の情報発信(ヘルパーだより)も目標に上げてました。発行は一度でしたが今後も情報発信行いたいと思います。

2024 年度 養護老人ホーム北淡荘 事業報告書

1. 総括

2024 年度は、前年度と同様、北淡荘稼働率向上を最大目標とし、1 年間通して職員全体で取り組んできました。2024 年 4 月稼働率 88.6%からスタートした年度初めでしたが、2025 年 3 月には 89.2%、月平均 90.6%という結果となりました。2024 年度、新規入所者数 31 名、退所者数 30 名。新規入所者について、島外からの新規入所者は 1 件もなく、すべて島内の措置入所となり、「措置控え」という問題が身近に北淡荘にも現れています。しかし島外からの依頼はなくとも、年間を通して 31 名の新規入所者確保する事が出来た事は、北淡荘と福祉事務所間で良い関係を築きあげ、また民生委員の方たちにも情報発信し、北淡荘の存在意義や価値を伝えられたのも、多くの入所者確保に繋がった結果だと思います。

感染症については、2025 年 1 月にインフルエンザ感染者 3 階 1 名、2 階 1 名と出ましたが、初動対応・感染者対応がしっかりと出来た事により、最初の感染者以上に感染者を出すことなく、終息を迎える事が出来ました。

2024 年度も稼働率が思うように向上出来ずに苦しい展開となりましたが、前年度より多くの新規入所者を確保しスムーズに受け入れが出来た事は、北淡荘職員全体に、稼働率向上に向けての理解と協力があっての事だと思います。これからも厳しい状況は続いていくと思いますが、職員同士が相互理解・共通認識を持ち、チームワークを高める事により、職員が働きやすい環境、入所者が生活しやすい環境を整え、より素晴らしい北淡荘を創っていききたいと思います。

来年度への課題及び展望

年度は入所定員が 168 名から 150 名へと定員を減少し、相談員職員は 1 名減となります。

入所者は現在とほぼ変わらず、職員が減る事となりますが、今までと変わらないサービスを提供していきたいと思っています。

又、慢性的な人員不足が継続しています。新しい人材に頼らずとも、既存の職員を大切にし、信頼関係を築き上げ、職員一人一人がやりがいを持ち働き続ける事が出来、苦難を共に乗り越えられる北淡荘を目指して行きたいと思っています。

ほほえみ拠点

2024 年度 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 事業報告書

1. 総括

開設から 13 年が経ち、2024 年度は

- ①褥瘡、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント、集団感染のゼロを目指す。
 - ②クレーム、アクシデント及び重大アクシデント(行政への提出する事故)の件数を前年度より減少させる。
 - ③職員の資格獲得のための支援を強化し、サービスの質の向上と新たに算定可能な加算の取得を行う。
 - ④介護ロボットやテクノロジー等の活用を通して、業務の共同化、移管、生産性の向上を図る。
 - ⑤利用者、家族、関係機関、地域住民や学生等との交流や地域貢献活動を実施し、情報共有や発信を行う。
 - ⑥緊急受入や困難ケース等のニーズに合わせたサービス調整を部署間連携し、柔軟かつ積極的に行う。
 - ⑦全職員対象に 1 回以上/年、資質向上と職業倫理の徹底に繋がる研修会や講習会、交流会、活動等に参加する。
 - ⑧BCP 計画の完成度を高めるために各部署や職種間で訓練、勉強会等を重ね、3 月度に地域住民との災害訓練を実現する。
 - ⑨法令順守および収入の確保(総稼働率 98%以上/年)と経費の削減を継続的に行う。
- を大きな目標として進めてきた。

- ① については、高齢者虐待、身体拘束、ハラスメント『0』を達成できた。褥瘡においては、3 名の方が褥瘡発生に至ったが褥瘡マネジメント加算等に係る PDCA サイクルも活用し、適切な処置、対応に努めた。集団感染においては、1 月下旬から 2 月上旬にかけて、コロナ感染の利用者(ショートステイの利用者含む)、職員が計 12 名にのぼったが重症となった利用者はおらず、淡路市や洲本健康福祉事務所(健康管理課)にも報告を行い、指示に沿って適切な対応が出来た。
- ② については、重大アクシデント件数の比較として 2023 年度が 5 件、2024 年度が 2 件と減少となった。
2024 年度の内訳としては、「職員の介助による事故(骨折、怪我)」が 2 件となった。
クレーム件数の比較として 2023 年度が 2 件、2024 年度が 2 件と前年度と同件数となった。
2024 年度の内訳としては「利用者への接遇(利用者からのクレーム)」が 1 件、「利用者への整容(家族からのクレーム)」が 1 件あったが、それぞれについて直接ご本人、ご家族にも謝罪、経緯の説明、改善策等を報告し、再発防止を徹底している。
- ③ については、介護リーダー3 名がユニットリーダー研修の資格を取得した。看護職員においては、正看護師 1 名と准看護師2名の配置を見直し、2024 年 4 月から『看護体制加算Ⅰ(イ)12 単位/日(長期入所)』『看護体制加算Ⅱ8 単位/日(短期入所)』の算定を開始したが、事業所内の看護職員の人員不足等により 2025 年1月より加算の取り下げとなった。その他の加算としては、介護ロボット等の活用や協力病院との連携を強化し 4 月に長期入所の利用者を対象に『生産性向上推進体制加算Ⅱ』10 単位/月』『協力医療機関連携加算 100 単位/月』、6 月に『高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅰ)10 単位/月』『高齢者施設等感染対策向上加算(Ⅰ)5 単位/月』に算定を開始、継続している。
- ④ については、2023 年 2 月に全居室(39床)に見守りシステム(離床センサー、カメラ機能など)の導入を行い、介護業務や記録業務の効率化を図り、また見守りシステムで収集しているデータの分析や活用を行いながら、より良いサービスの提供と事故等の防止や早期発見に努めた結果、重大アクシデントの減少に繋がった。
- ⑤ については、誕生月の利用者には希望を聞き、家族協力のもと『自宅に帰る(日中)』『外出、外食』行事を行い、10 月には『須磨シーワールド』に利用者、家族と日帰り旅行に行った。地域貢献活動については、9 月に聖隷カーネーションホームと連携し『体験型介護講座(介護技術講習会)』を開催し、1 月には『介護業務イメージアップ推進事業(出前授業)』を東浦中学校 1 年生に「福祉の仕事の魅力」について講演を行った。
- ⑥ については、新規長期入居者 4 名、新規短期入所者 31 名を受け入れた。また、受け入れた利用者の中には
独居や身寄りの無い方、認知症状の進行により在宅での生活が困難な方、また医療面においてバルーンカテーテル留置をしている方の受入れも積極的に行った。
- ⑦ については、資質向上と職業倫理の徹底に繋がる内外部研修や勉強会、活動等への参加を全職員対象に達成することは出来たが、職員個々の能力やレベルにあった研修等を設定し、より効果的な機会となるよう努めていく。
- ⑧ については、BCP の勉強会、実地訓練をそれぞれ 1 回ずつ行い、また BCP 計画の見直し、更新も年度内に行った。地域住民との避難(災害)訓練も運営推進会議のメンバー(町内会長、民生委員など)を通して、地域住民の方にも呼びかけ実施した。
- ⑨ については、介護報酬改定(2024 年 4 月～)の部分においても法令順守を徹底したうえで、新規加算の算定等もあり予算以上の収入を確保することが出来た。ただ、数値目標としていた『総稼働率 98%以上/年』を達成できなかったため、来年度以降も目指していきたい。

来年度への課題及び展望

まず、2024 年度の運営面においては介護報酬改定による基本報酬単価のアップや新しい加算の取得を実施しながら、入退居者のコーディネートを効率良く行えたことで長期入居、短期入所の稼働率も 1 年間を通して予算以上の運営を維持することが出来た。ただ、1～2 月度に新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ感染、感染性胃腸炎が利用者、職員間で流行し、利用者の入院、受け入れ制限や職員の体調不良により、運営状況の悪化や介護職員の人員不足に陥る事態となった。今回の経験や反省点、改善点を活かして来年度も引き続き「集団感染ゼロ」を目指す。

また、2024 年度の課題、取り組みに掲げていた「協力医療機関との連携の強化」、「感染症への対応強化」、「高齢者虐待防止の推進」、「認知症ケアの推進」、

「口腔衛生管理の強化」「LIFE 関連加算の充実」「介護ロボットやICT等の活用促進」についても完成度を高め、効果的なサービスを提供を行う。

特に「介護ロボットやICT等の活用促進」においては、全利用者のベッドに荷重センサーを取り付け、見守りシステム(介護ロボット)を導入したことにより、居室内でのアクシデントや事故の予防、早期発見に大きな効果をもたらしている。今後も見守りシステムに集約されたデータ等を活用し、介護の質の向上と利用者の安心安全な生活の確保を図る。

地域貢献、地域交流については、今後も地域住民や関係機関と「トライやるウィーク」「体験型介護講座」「出前授業」「認知症サポーター養成講座」「避難訓練(火災、津波想定)」の継続と充実を図りながら、新たな活動や取り組みなども積極的に実行していきたい。

また、避難訓練をはじめ、非常災害時や感染症発生時の業務継続計画に係る研修や実地訓練などにおいては、より多くの関係機関や民生委員、町内会、地域住民の方にも参加を促し、相互協力体制を構築できるよう計画を進めていく。

最後に、今後も施設運営に係る人件費や光熱費、食材料費などの物価高騰による支出が増加し続けていく見通しであるため、日々の業務の中での節電や節約の徹底と消耗品等の購入物品や食材料費などの見直しや代替品への変更など経費削減への取り組みも強化しながら、健全な運営と利用者や家族、地域住民、関係機関から選ばれ、信頼と信用を得られる施設をこれからも目指していきたい。

2024 年度 千鳥会デイサービスセンターほほえみ事業報告書

1. 総括

ほほえみデイサービスの特徴を生かし、更に前進を志した 2024 年度。

お一人お一人が自分らしく安心して過ごす事ができる心地よい空間づくりを心掛け、安定した環境から、安心と信頼関係が生まれ“やる気を育てる。”この過程が、ほほえみデイサービスの最大の特徴となりました。“やる気”は伝染します。体操・レクリエーション・行事等の参加率が向上し、やりたい事、してほしいことが明確(アンケート等)になり、現在のみんなで作り上げるデイサービスの活動に繋がっています。

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス等の感染症に悩まされる時期もありましたが、感染対策を強化しながらも、楽しみはそのままに、活動計画は予定どおり実践することができました。

1:あらたな取り組みと、ほほえみデイサービスの特徴

1 安心して過ごせる空間づくり

社会参画の場、地域交流の場を提供します。

- 1)他のご利用者との関係性を考え、自分らしく楽しく過ごせる席をご用意。
- 2)社会的孤独感の解消 固有名詞で個々に話しかけ、役割が持てる居場所や活動を提供。

2 自分らしい生活を支援

- 1)ご家族や主治医・ケアマネージャーとの連携により、包括的かつ継続的な在宅生活を支援。
- 2)体調や病状の変化等、気づいた事を、その都度ご家族や主治医に連絡し早期発見・早期対応に努める。
- 3)ご家族との連携を図り、相談窓口となる。
- 4)ご本人の力を引き出し、自分で決定、自分のやりたいことができる「自立を意識した介護」を提供。

3 ご家族の介護負担減少

- 1) 心身機能の維持・向上に努め、高齢者に配慮した「きざみ食」や「ソフト食」など、利用者の状態に合わせた栄養バランスのとれた食事や、設備の整った施設での入浴、又、配食サービス等のご利用により、ご家族が遠方に入る方、お勤めされている方、また老々介護の方々の介護負担を軽減し、在宅生活を支援する。

4 ご利用者の声に耳を傾ける

“やる気を育てる”

- 1) アンケート調査により、人気の取り組みNO1 「お楽しみ入浴」毎月 1 週間、お楽しみ入浴週間とし、今年度は有名な温泉地の入浴剤を使用しました。【草津温泉】【有馬温泉】【登別】等々、「お楽しみ入浴の日が一番好き」「温まる」「気持ちがいい」と、大好評でした。
- 2) 納涼祭や敬老会、クリスマス会等、職員主体で行っていた行事が、ご利用者参加型となり、更に面白く楽しくなりました。帰りの会での「脳トレーニング」にも、自作のクイズを披露する方や、こんなことしてほしいとの要望も聞けるようになり、全員で作り上げる活動が楽しみを倍増している。

5 その他

- 1)介護職離れが懸念される中、新人職員の成長を願いフラットで快適な職場環境を志す。
- 2)親しさの中にも礼儀を重んじた「接遇」を行う。

2024 年度は、接遇の難しさを学んだ 1 年間でした。どの角度から見ても「接遇マナー」が行き届き、すこぶる良い環境と言えるデイサービスである為に、職員全員で考え継続して取り組んでいきたいテーマです。

新規ご利用者に至っては、ほほえみデイサービスご指名や、ご利用者の紹介等が多数あり 32 名の新規ご利用者をお迎えすることができました。その中で、21 名の方が退所されています。困難事例を受け入れ、試行錯誤の未定着できなかった方が数名います。重度の認知症や視力障碍等の方への寄り添う介護の難しさを痛感しました。

2024年度の平均稼働率 78.0%（昨年比△0.3%）稼働率は昨年と変わらないのですが、ご利用者の平均介護度が 1.9 と低下、その伴いご利用単位も下がり、中重度者ケア体制加算の対象外となったことも大きく影響し、大幅に業績が低下しています。週平均 30 名をめざして運営の安定化を図りましたが、感染症

(集団感染は、出ていません。)や緊急入院、当日の体調不良によるキャンセルが例年よりも多く、当初予算には及ばない結果となりました。

新人職員を迎え、新たな環境下でゆっくり成長できるように、専門知識や共有すべき情報は分かりやすい言葉で伝達することで、職員間のコミュニケーションの活性化を図り、フラットで風通しの良い快適な職場環境を目指し取り組んでいます。サービス面では、接遇マナーの見直しと改善、介護技術やサービスの質の向上に努め、施設内外の研修に参加し、専門職としてのスキルアップを図っています。(社会福祉主事研修・実務者研修受講者1名)

広報では、毎月SNSや、会報誌を用いてデイサービスでの生活の様子や活動を随時発信、また、年 2 回アンケート調査を実施しサービスの質の向上に努めています。

来年度への課題及び展望

2025 年度は、職員の退職また新体制で迎える状況であり、また職員が不足している中でも、自分たちが出来る事を提案しながら、ご利用者が安全にまた安心してこれまでの生活が 1 日でも長く過ごしてもらえるよう関係性を大切に努めていけたらと思います。そして、笑顔あふれるサービス提供を行い、ご利用者また自宅で支援されるご家族の負担軽減、また相談依頼時には調整を行い関わりも深めていきます。他機関との連携も図りながら支援に努めていきます。

また、「地域の拠点」となり、ご利用者やご家族、地域の方々との交流と、災害時適切な連携が図れるように基盤となる活動も含めていきます。

前年度、達成出来なかった項目においても職員間で検討しながら進めていけるよう努めていきます。

2024 年度 小規模多機能型居宅介護事業所ほほえみ事業報告書

1. 総括

2024 年度は登録者数 27 名からスタートし、10 月には 29 名となり年間平均が 27 名程度と 2023 年度から上げる事が出来、2022 年度以前と同程度の実績となり、目標値を達成する事が出来ました。新規利用の相談件数が多く、各定員の範囲内で利用調整が出来た事、2023 年度と比べ利用終了者が少なかった事が稼働率増加の要因と考えます。また、引き続き外部ショートステイの受け入れ調整も行えており、小規模多機能以外の方にも、サービスが提供出来るようにしています。介護報酬の改定では、サービス提供体制加算がⅢからⅠへ移行し、総合マネジメント加算Ⅰの新しい要件にも対応する事で介護報酬を上げる事が出来ました。

2023 年度に引き続き、2024 年度も外出行事の充実に取り組んでできました。コロナ前まで恒例行事となっていた、一泊旅行を 5 年ぶりに実施し、6 月にご利用者 4 名の方と岡山県へ行ってきました。参加されたご利用者は大変喜ばれており、今後も継続して多くのご利用者に参加していただきたいと考えています。秋には、紅葉見学で有馬への日帰り旅行も実施することが出来ました。他にも、近隣の喫茶点への歩いての外出や外食行事等、気軽にお出かけが出来るようになった事で、ご利用者の「したいこと」の達成や、気分転換、生活の充実に繋がれたと思います。

感染状況については、12 月末～1 月初旬にかけて、ご利用者 6 名の方の新型コロナウイルスの感染がありました。全員が自宅療養や入院療養での対応となり、事業所での療養の方はおられず、職員の感染もなかったため、勤務体制には影響はありませんでした。テーブルの配置変更や共有部分の消毒等を行いました。改めて感染症の拡大防止の難しさを実感し、今後の感染予防や発生時の対応力の向上に繋がっていききたいと思います。

職員状況については、2023 年度末に介護職員が 1 名退職し、4 月に看護職員の退職がありました。看護職員については他部署看護職員の兼務により対応し、介護職員は 12 月の 1 名入職により人員不足が解消されています。新入職員の教育については、各職員でフォローを行いながら、業務に慣れる事が出来るように対応が来ています。職員研修の面では、2024 年度も外部研修への参加数は少なく、2025 年度も継続しての課題となっています。

来年度への課題及び展望

2025 年度は、職員の異動により介護主任を配置しない体制となります。正規職員間での業務の分担や、主任業務の集約等、引き継ぎをスムーズに行い、ご利用者・ご家族にご迷惑をかけないよう対応していきたくと考えています。また、適切な介護用品の使用や業務の効率化を図りながら職員の負担軽減と、研修参加機会をつくることで職員のスキルアップを図り、ご利用者へのサービスの向上へと繋がっていききたいと思います。

LEVN

2024年度 小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもり事業報告書

1. 総括

2024 年度は業務の効率アップをさらにを行い利用者に関わる時間増やし、レクリエーションに力を入れ利用者の顧客満足度を上げる取り組みを積極的に行いました。運営推進会議や外部会議等で取り組みのPRを行い短期利用や困難ケースも積極的に受け入れ、利用者の確保を行ってきました。その結果、昨年度に比べ年間延べ登録者数を 99 名増やすことができました。

インシデント、アクシデントが昨年に比べ 10 件増えたが積極的にインシデント報告書を上げることで再発予防に努めた。大きなアクシデントが 2 件あり、再発予防に努めていきたいと思います。

また、感染対策に努め施設内での感染症拡大もなく過ごすことができました。感染症の状況を見ながら今年度は外出や地域からのボランティアの受け入れ、ちびっこランドの園児やグループホーム RAVIE のご利用者の方との交流行事を多く行いました。

来年度への課題及び展望

2025 年度も更なる業務改善・改革に力を入れ利用者はもちろんのこと、地域住民の相談窓口や交流の場を提供し地域に頼れる事業所になれるよう努めてまいりたいと思います。

また来年度も引き続き新規獲得に努め安定した運営が行えるよう、経費削減や、収益確保、業務改善に努め業務の効率アップ、職員が働きやすい環境作りに取り組んで参りたいと思います。

2024年度 千鳥会在宅介護支援センター(居宅介護支援事業所)事業報告書

1. 総括

2024 年度のケアプラン件数は目標 1524 件に対し 1485 件(3 月の月遅れ分は含めず)と目標の 97.4%に留まった。一方で年間の新規獲得件数は 50 件であり年平均は 4.16 件と昨年よりわずかに持ち直したが、20 年度 1883 件(前年度比-247)、21 年度 1655 件(前年度比-228)、22 年度 1615 件(前年度比-40)、23 年度 1506 件(前年度比-109)に比べ前年度比-21 と下げ幅は縮小したもののプラスにはならなかった。入院件数は、ほぼ例年通りであり、新規の年平均は昨年より上がり、また件数推移の傾向も夏季に伸び悩んだことを除き従来通りであったにも関わらず件数が伸び悩んだ結果については、依然として終了件数の多さにある。2024 年度は重度化予防、在宅生活の可及的永続を目指すことで件数のマイナスを最小限度に抑えることを狙い、新たに月 1 回症例検討会を始めるなどして対応したが、反映した結果とならなかった。そのため来期はさらなる終了件数の抑制について新しい方策を考案し実施していく必要がある。

来年度への課題及び展望

2024 年度は年間件数がプラスに転じることはなかったものの、直近 6 年の中で減少幅は最小であり、かつ年度途中で人員の減少があったことを考慮すると間違ったアプローチをしていたとは言い切れず、保険者の目標と軌を一にすることから 2025 年度も継続すべきであると考ええる。しかし 2025 年度の目標とする数値を達成するには更なる方策を講じる必要がある。そのため 2025 年度は職員の教育に重点を置き、可及的速やかに余裕をもって新規案件を受けられる事業所の態勢を整える。並行して地域での PR を更に活発に行い、特にこれまでほぼ関わらなかった洲本市など他市での PR を強力に行っていくことで、対応する実質的なエリアを拡大。件数増加を見込められるよう図っていく。直ちにどの程度件数等結果に反映されるものは未知数ではあるものの長期的にプラスになる可能性は非常に高いと考える。

2024 年度 千鳥会在宅介護支援センター事業報告書

1. 総括

2023 年度の動きから更にコロナウイルスの対応が緩み、地域の活動が更に活性化し、新しい活動にも繋がる 1 年であった。毎月の訪問件数は前後するものの、最終的には満額の予算達成に至った。

6 月に津名地域の緑ヶ丘、3 月に育波の公民館にて在介訪問から地域のニーズをつかみ、100 歳体操の新規会場の立ち上げを行った。立ち上げの過程で民生委員、町内会他各組織、社会福祉協議会とつながり、協力し、それぞれの組織との関係性の構築に繋がることが出来た。いき100会場の立ち上げについて他在介では実績が無い状況であり、年間 2 会場の立ち上げについて淡路市の健康増進課、包括支援センターより評価しとなる業績となった。

引き続き、毎月の津名ケア会議、北淡ケア会議にて構成員の主体として司会進行を行い、地域ケアシステムの構築に向け、新しい資源開発の検討や、専門性を深める勉強会の開催など、意見をまとめる中で居宅含め、千鳥会在宅介護支援センターの存在感が強くなっている。

認知症サポーター養成講座についても開催することができた。他、積極的に地域の会議に等に出席し、千鳥会の取り組みや魅力、地域で担える部分の情報発信を行った。民生委員他、会話の流れが自然になってきており、民生委員との距離が近づいている。個別ケースの相談も増加傾向となる1年となる。

来年度への課題及び展望

2025 年度も引き続き、在介訪問や関係機関との情報交換の中から 100 歳体操会場の新規会場の立ち上げ、新規事業の健康王国を活用した集いの場を作れる様に取り組んでいく。

他、淡路市との委託契約の内容を基に訪問活動を行う中で地域ニーズを把握し、地域ケア会議等で専門職や組織、機関と協議し、地域づくりができるように活動続ける。引き続き、津名ケア会議、北淡地域ケア会議では、主体であり、司会進行を行っていく事となるので会議が円滑、スムーズかつ実りのある会議となる様に努めつつ、千鳥会の PR につなげる。また認知症サポーター養成講座他、地域応援活動を積極的に行い、福祉の魅力や理解につながる様に活動していく。また、在宅訪問の繋がりから、千鳥会のサービスに繋がり、選ばれるように信頼関係を築いていく役割を担っていきます。

2024 年度 家族介護者教室・家族介護者交流事業報告書

1. 総括

家族介護者交流事業については包括支援センター、社会福祉協議会と合同で企画を行い、一般含め 10 名の参加者となった。オレンジランプの主人公のモデルになった丹野氏の講演を聞き、介護者のリフレッシュや交流につながった。

介護者教室について平均 9 名程の参加者。前年平均が 5 名であり、前年比で 80%以上の参加者数の増加となった。

来年度への課題及び展望

家族介護者交流事業、家族介護者教室ともに参加者が増える様に魅力的な企画を行っていく。

2024年度 ちびっこランドぬくもり事業報告書

1. 総括

2023 年 2 月に開設し少しずつ地域の方にもぬくもりの存在を知っていただくことができ、たくさんのご家庭とのご縁を結ぶことができた 1 年となりました。子どもたちにとって「第二の家庭」となるよう保育環境に配慮し、一人ひとりの人格を尊重しながら、丁寧な保育を心掛け信頼関係を育てていくことを大切にしてきました。子どもたちの思いに寄り添いながらさまざまな経験を通して、子ども主体の保育実践に努め、視野を広く持ち個々の気づきや発信を増やし保育計画に取り組むことができました。

行事に関しては季節に応じた行事計画を作成・実施、感染状況を見ながらですが、小規模多機能型居宅介護事業所ぬくもりのご利用者、グループホーム RAVIE のご利用者、ちびっこランドちどりの園児たちとの交流行事も積極的に計画し実施することが出来ました。保護者様からの喜びの声も多く、子どもたちにとってかけがえのない経験をすることができ、個々の成長に繋げることができました。

来年度への課題及び展望

少子化の進行や乳幼児がいる共働き家庭の増加など社会の状況は大きく変化しており、乳幼児の成育環境として園が果たす役割や園に対する期待はますます大きくなっています。

地域住民の期待に沿えるよう、今後も保護者と保育者が密な情報交換を行い、子どもたちの環境づくりに努め、年齢に応じた落ち着いた保育環境の中で子どもたちが安心して、安定した生活が保障され充実した毎日を送れる取り組みを行います。そのために、就労支援と育児支援の両方の社会的相互効果を深める保育計画を実施していきたいと思います。

2024年度グループホーム RAVIE 事業報告書

1. 総括

2024 年度は増床工事や補助金申請を行い、新年度に向けての準備期間となりました。新規利用相談も増床分は確保できました。現利用者に関しては、稼働率の向上を目指し、週末や祝日のイベントを計画、開催し、多くの利用へ繋がりました。2023 年度は 57.4%の年間平均稼働率だったのが、2024 年度は 84.4%の稼働率で終えることができました。広報活動としては、毎月のインスタグラムの更新や、年 4 回の広報誌の発行。さらには、地域ケア会議や、自立支援協議会の各部会へ出席し、RAVIE の取り組みや活動内容について話をすることができ、南あわじ市内の事業所からの利用相談があり、島内における RAVIE の知名度の向上に努めることが出来ました。ご利用者の支援としては、一年を通して、ご利用者の「できる事」が増え、一部支援も必要な事もありますが、出来ることの喜びで自信になる表情に変わったように思います。また、共同生活をする事によって、それぞれのご利用者が他利用者の支えになり、助け合い、それぞれの役割を感じ、意見を言えるなど成長を感じました。年末年始にご利用者、職員に感染症が見られましたが、拡大することなく終息できました。また大きな事故やケガない 1 年となりました。

来年度への課題及び展望

2025 年度は増床いたしましたが、職員確保が課題となっております。職員確保が出来次第、人員配置の基準をクリアし、定員を 10 名まで引き上げ、収益の確保に努めていきます。

そして、新規利用者が安心して生活が始めていけるように、支援を提供し、イベントを充実させ、休日の余暇活動にも努めるとともに、ご利用者の将来のために自立した生活のサポートを行っていきます。また、引き続き、感染症に気を付け、ご利用者が健康で毎日を RAVIE で過ごせるように支援の提供に取り組んで参ります。

2024年度 グループホームしおさい・しおさいデイサービスセンター 事業報告書

1. 総括

2024年度はコロナ禍以前の生活様式を取り戻すことと、引き続きの感染症予防への取り組みを継続しながらも、コロナ禍以前の生活様式を本格的に取り戻していく年度となりました。具体的には、ご利用者の生活においてご家族と共に過ごす時間や機会の増加をはかり、また地域住民として事業所より積極的に地域活動に参加する機会を意図的に設けることができるよう支援をしてきました。ご利用者とご家族との直接面会はもとより、外食や外泊も含めてご家族と共に過ごす機会の提供を再開しています。つきましては、事業所とご家族互いの信頼関係をベースにした感染症予防への共通認識を保ち、互いの体調や健康状態の情報交換をしながら、外出外泊の再開と継続に努めています。月あたりの面会者数は30～40組を超え、外出外泊も週1組以上の実績となっています。事業所で過ごす姿をご家族とともに見守り支える事で、ご利用者の心身の活動により影響を与えることを再認識しています。また事業所からもご利用者の様々な地域活動への参加を支援しています。地域の祭事への参加、住民として編み物教室等サークル活動への参加、同じ圏域の他法人特別養護老人ホームや社会福祉協議会とネットワークを構築し、学校やこども園との交流などの機会も再開することができています。事業運営においては、熱中症や家族の事情による関係機関からの緊急的なショートステイ受け入れ相談に、数多く応需。地域への認知症ケアを還元するなかで、結果として入居サービスとショートステイを合算すると99%を超える稼働率を維持し、安定した収支につながりました。2025年度も専門性の高い認知症ケアの提供のもと、入居利用者への質の高いサービス提供、ショートステイ・共用型認知症デイサービス含めた在宅サービスへの支援にも努めます。

来年度への課題及び展望

2025年度は事業所開設21年目を迎えます。長年活躍した職員の高年齢化が顕著となっています。メリットデメリットの両面をとらえ、長く培った特殊なスキルを活かし末永く職員が活躍できるよう体力的に負担の少ない業務改善が求められます。職員の身体的負担を軽減するため、今年度は中央競馬馬主社会福祉財団の助成のもと全床の電動ベッド導入、入れ替えを行いました。今後も施設環境の整備に、より一層取り組んでいきます。引き続き旧一宮町圏域におけるただ一つの認知症の専門的なサービスとして、施設サービス在宅サービスを一体的に提供し、地域の社会資源として今以上に機能し続けることが責務ともいえます。それに応えながら、地域密着型のサービスとして、各関係機関との連携や地域住民との交流の機会も積極的に見出し、グループホームしおさいの新たなカタチを確立していきたいと考えています。

2024年度 佐野デイサービスセンター事業報告書

1. 総括

今年度の稼働率の平均は87.9%(前年度比較+12.8%)。延べ利用者数6809人(+1053人)。新規利用者数29名(-6名)となっており、利用者確保、収益確保ができました。ご利用者が大幅に増えた状況となりましたが、職員で力を合わせ、業務改善、業務分担、業務内容の見直しを図ることでサービスの質を落とすことなく、デイサービスとしてのサービスの維持ができました。事故・アクシデントについてはリスクマネジメントを行う事で、大きなクレームや事故に繋がる事もなく対応ができました。昨年度起こった感染症の蔓延もなく、台風による1日間の臨時休業で今年度は終えることができました。しかし、今後もより一層の感染予防対策に努めたいと思っています。今のご利用者数ではまだまだ職員が不足していることもあり、外部へ発信するような行事を行うことができませんでしたが、出来る範囲の中で利用者満足度を向上させる取り組みはできました。

来年度への課題及び展望

2025年度は、引き続き選ばれるデイサービスとしての取り組みを維持、向上する事で、収益を確保していきたい。また、リスクマネジメントの強化による事故発生時の対応、BCP計画に基づき災害・感染症発生時の対応など、訓練や準備を行い安心・安全な運営に努めたい。

2024年度 ちびっこランドちどり事業報告書

1. 総括

2024年は、月極園児12名の入所から始まり、5月、6月、8月に1名ずつ増員し、計15名で保育をすすめてまいりました。地域の方々からの一時預かり保育の依頼も増え、存在を知っていただけていることを嬉しく思いました。その方々との出会いを大切に、異年齢児が安心、安全に過ごすことのできる保育環境を整え、子ども達が自ら考え、やる気を持って取り組むことが出来る保育を職員で計画し、実行してきました。毎月の誕生日会をはじめ、四季の行事や、他事業所の方との交流において、色々な方と触れ合い、子ども達の笑顔を多く見ることが出来、保護者の方からの喜びの声も多くいただくことが出来ました。

感染におきましては、冬場に感染性胃腸炎が流行し、改めて感染対策の見直しと、感染時における職員の対応を話し合い、改善してきました。マスクが出来ず、何でも口にいれてしまう乳児の対応については、日頃からの、子ども・職員の健康観察と、手洗い・換気・玩具の消毒など、感染予防に気を付け過ごしていく大切さを改めて感じました。

食育活動におきましては、今年度も季節の野菜を育て、収穫し、クッキング活動を計画しました。夏場の猛暑の影響で、野菜の生育にも影響が出てしまいましたが、その場に応じた計画を職員間で考え、子どもたちが食べ物について興味・関心が持てるよう配慮してきました。

保護者に対する支援におきましては、子育ての悩みに共感し、助言をし、一人ひとり向き合うよう努めてまいりました。また、SNS を活用し、園生活の様子、行事の公開等、子どもたちの成長を届けることに努めました。

保護者の皆様にもご協力を頂いたおかげで、大きな混乱もなく、子どもたちが安心して園生活を送り、無事に一年を終えることが出来ました。今後もより良い保育を提供し、子ども達が笑顔で過ごせる保育園を目指し、努力していききたいと思います。

来年度への課題及び展望

保育園で過ごす乳幼児期は、子どもの将来の性格を形成していくうえで、とても重要な時期です。そんな大切な時期を過ごす園生活の中で、私たち保育士は子ども達の気持ちに寄り添い、しっかり受け止め、安定した生活を送ることができるよう関わっていききたいと思います。また、子どもたちが、自らやってみようと思える保育計画を作成し、何にでも経験する・体験する場を増やしていきたいと思います。園児・職員の安全を第一に考え、災害時や感染時の対策を行うとともに、臨機応変な変更・見直しを行いたいと思います。SNS を有効活用し、園の様子や行事を公開し、子ども達の成長を伝えていきたいと思います。また、土日保育、一時保育など、地域の方のニーズに対応した保育環境を整え、子ども達・保護者の皆様・職員が、みな笑顔で楽しく過ごすことのできる保育園を目指し、日々努力していききたいと思います。

2024 年度 千鳥会福祉用具貸与事業所 事業報告書

1. 総括・来年度への課題及び展望

高齢者や障害者をサポートし、介護する方の負担を軽減することも目指し、2024 年度も北淡荘の利用者を中心に福祉用具の貸与を行いました。利用して頂く事で、利用者が可能な限り事業所で自立した日常生活を送ることができるよう、利用者の希望や心身の状況、生活環境などをふまえ、適切な用具を選び援助していきます。